

将来のまちの姿

定住人口 三万四千人
 交流人口 二百五十万人
 を目指す

わが国自体が、これまでに経験したことの無い人口減少社会を迎えており、南丹市においても定住人口は、平成二

十九年には約四千人が減少し三万二千人になると予測されます。しかし、今後の土地区画整理事業や企業誘致、JR山陰本線複線化による利便性の向上などによって、できる限り人口の維持に努める必要があります。十年後の目標人口を三万四千人としました。観光客数などの交流人口については、現状より約百万人多い二百五十万人を目指します。また、各地域の産業、自然、歴史、文化やこれまでのまちづくりの蓄積を十分に生かした地域整備、市街地整備を図ります。

自然や地域特性に配慮した四つの「ゾーン」

■ふれあいの森ゾーン

美山地域全域と日吉地域北部を含むエリアであり、農村景観や豊かな自然環境が存在しています。

今後は、これらの地域資源を保全しながら、都市と農村の交流を中心とした地域おこしを推進し、グリーンツーリズムや都市からの移住促進を図るなど、自然とのふれあい豊かな地域整備を進めます。

■やすらぎの田園ゾーン

丹波高原東部の丘陵地帯にあり、日吉地域中南部と八木地域北東部、園部地域北東部を含みます。なだらかな山々

園部地域中部、八木地域南西部を含むエリアであり、古くから地域の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。また、近年はJR山陰本線電化や京都縦貫自動車道の整備により、都市圏との時間的距離が短縮されました。今後は、企業誘致の推進、

■にぎわいの市街地ゾーン

- 大学等の高等教育機関
- 公立南丹病院



のまちのすがた 構想図

地域交流軸

ふれあいの森ゾーン

- 芦生原生林
- かやぶきの里 (重要伝統的建造物群保存地区)

やすらぎの田園ゾーン

- 日吉ダムおよび周辺レクリエーション施設
- 農村環境公園

のゾーン

高原および温泉施設